

令和4年度 草津市立クリーンセンター年間報告書

令和4年度のクリーンセンターへ搬入されたごみ量や運転状況等を報告書として以下のとおりまとめた。

1 ごみの搬入量

令和4年度にクリーンセンターへ搬入された総ごみ量は38,182.42tで、令和3年度の38,620.00tと比較すると、1.13%(437.58t)の減となった。

内訳を見ると家庭系ごみは2.54%(662.50t)の減、事業系ごみは1.79%(224.92t)の増であった。

家庭系ごみ量は、全体で662.50tの減となった。前年度と比較して搬入量が大きく減となったごみ種は、破碎ごみ類および粗大ごみで、破碎ごみ類が122.16tの減、粗大ごみが139.41tの減となった。この要因としては、令和3年10月1日からクリーンセンターへのごみの直接持込について、事前申請(予約日制)制度を導入したことにより、これらのごみの持込量が抑えられたことによるものと考えられる。

事業系のごみ量は令和3年度と比較すると、1.79%(224.92t)の増となり事業活動はやや上向き傾向にあると思われるが、令和元年度の事業系ごみ量13,537.66tと比較すると728.29tの減となっており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、引き続き事業活動は停滞しているものと考えられる。

【ごみ搬入量】

		令和4年度	令和3年度	対前年度比
年間	総ごみ量	38,182.42 t	38,620.00 t	▲1.13%
	家庭系	25,373.05 t	26,035.55 t	▲2.54%
	事業系	12,809.37 t	12,584.45 t	1.79%

【市民1人1日当たりのごみ量】

市民1人1日当たりのごみ量を前年度と比較すると、1.76%の減となった。

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
1人1日当たりごみ排出量	757.28g	770.83g	▲1.76%

$$1人1日当たりのごみ排出量 = 38,182.42t / 365日 / 138,139人 \times 1000 \times 1000 \\ = 757.28 \text{ g} / \text{人} \cdot \text{日}$$

○総ごみ量 38,182.42t (クリーンセンターへ搬入された総ごみ量)

○人口 138,139人 (草津市住基人口、令和4年10月1日)

参考

※国の定義に合わせた1人1日当たりのごみ排出量

国の定義に合わせ、ごみ搬入量に資源回収量(集団回収含む)を加えた1人1日当たりのごみ排出量を算出すると、次のとおりとなる。

$$1人1日当たりのごみ排出量 = (38,182 + 2,138)t / 138,139人(住基人口 令和4年10月1日) / 365日 \times 1000 \times 1000 = 800g / \text{人} \cdot \text{日} \quad (\text{令和4年度})$$

(環境省発表一般廃棄物処理事業実態調査令和3年度の実績)

	全国	滋賀県	草津市
1人1日当たりのごみ排出量	890g	809g	820g

○環境省{一般廃棄物の排出及び処理状況等(令和3年度)}のデータ

○現時点で発表されている環境省の最新データは令和3年度のものです

※第3次草津市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画による、1人1日当たりのごみ排出量は次のとおりである。

市民1人1日当たりのごみ量を、前年度と比較すると、2.45%の減となった。

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
1人1日当たりごみ排出量	755.4g	774.4g	▲2.45%

$$1人1日当たりのごみ排出量 = (40,320t / 146,227人) / 365日 \times 1000 \times 1000 \\ = 755.4 \text{ g} / \text{人} \cdot \text{日} \quad (\text{令和4年度})$$

○総ごみ量 40,320t (家庭系+集団回収+事業系)

○人口 146,227人 (国勢調査人口に基づき県が公表する推計人口・令和4年10月1日)

【ごみ搬入量の最大月および最小月】

ごみ搬入量が最も多かった月は5月、最も少なかった月は2月であった。
ごみ種ごとの最大月・最小月は、下記のとおりとなった。

ごみ種	最大月	最小月	ごみ種	最大月	最小月
全ごみ種	5月	2月	破砕ごみ類	12月	2月
焼却ごみ類	5月	2月	陶器・ガラス類	12月	2月
プラスチック製容器類	8月	9月	乾電池	12月	5月
ペットボトル類	9月	2月	蛍光管	12月	9月
空き缶類	4月	11月	粗大ごみ	3月	1月
飲・食料用ガラスびん類	1月	11月	古紙類	4月	2月

1-1 焼却ごみ類（事業系一般廃棄物含む）

焼却ごみ類の全搬入量は 32,828.56t で、前年度と比べ 0.21% (67.98t) の減となった。

内訳を見ると家庭系は 1.45% (293.74t) の減、事業系は 1.79% (225.76t) の増であった。事業系焼却ごみ類の増については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた事業活動が回復しつつあると考えられる。

【ごみ搬入量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
焼却ごみ量	32,828.56t	32,896.54t	▲0.21%
家庭系	20,019.26t	20,313.00t	▲1.45%
事業系	12,809.30t	12,583.54t	1.79%

1-2 プラスチック製容器類

プラスチック製容器類の搬入量は 1,015.22t で、前年度と比べ 2.10% (21.75t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
家庭系	1,015.22t	1,036.97t	▲2.10%

1-3 ペットボトル類

ペットボトル類の搬入量は 338.94t で、前年度と比べ 2.97% (9.78t) の増となった。

【ごみ搬入量】

	令和 4 年度	令和 3 年度	対前年度比
家庭系	338.94t	329.16t	2.97%

1-4 空き缶類

空き缶類の搬入量は 238.49t で、前年度と比べ 3.71% (9.19t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和 4 年度	令和 3 年度	対前年度比
家庭系	238.49t	247.68t	▲3.71%

1-5 飲・食料用ガラスびん類

飲・食料用ガラスびん類の搬入量は 693.75t で、前年度と比べ 3.24% (23.22t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和 4 年度	令和 3 年度	対前年度比
家庭系	693.75t	716.97t	▲3.24%

1-6 破碎ごみ類

破碎ごみ類の搬入量は 597.08t で、前年度と比べ 16.98% (122.16t) と大きく減となった。この減となった要因は直接持込が事前申請制度になったことによるものと考えられる。

【ごみ搬入量】

	令和 4 年度	令和 3 年度	対前年度比
家庭系	597.08t	719.24t	▲16.98%

1-7 陶器・ガラス類

陶器・ガラス類の搬入量は 264.97t で、前年度と比べ 14.22% (43.94t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
家庭系	264.97t	308.91t	▲14.22%

1-8 古紙類

古紙類の搬入量は 1,233.22t で、前年度と比べ 1.56% (19.50t) の減となった。

【ごみ搬入量】

		令和4年度	令和3年度	対前年度比
家庭系	古紙類	1,233.22t	1,252.72t	▲1.56%
	(新聞・広告)	338.90t	356.00t	▲4.80%
	(雑誌・雑紙)	380.70t	385.47t	▲1.24%
	(段ボール)	513.62t	511.25t	0.46%

1-9 乾電池

乾電池の搬入量は 25.27t で、前年度と比べ 4.12% (1.00t) の増となった。

【ごみ搬入量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
家庭系	25.27t	24.27t	4.12%

1-10 蛍光管

蛍光管の搬入量は 8.28t で、前年度と比べ 12.75% (1.21t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
家庭系	8.28t	9.49t	▲12.75%

1-11 粗大ごみ

粗大ごみの搬入量は 938.64t で、前年度と比べ 12.93% (139.41t) の減となった。

前年度と比較して、家庭系粗大ごみは 12.86% (138.57t) の減、事業系粗大ごみは 92.31% (0.84t) の減であった。この減となった要因は直接持込について、事前申請制度(予約制)を導入したことの効果と考えられる。

【粗大ごみ搬入量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
粗大ごみ量	938.64t	1,078.05t	▲12.93%
家庭系	938.57t	1,077.14t	▲12.86%
事業系	0.07t	0.91t	▲92.31%

※事業系粗大ごみは、木質系のものに限る。

【予約申込による委託収集件数(実績)】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
委託収集件数	8,298件	7,998件	3.75%
委託収集点数	18,379点	17,270点	6.42%

(参考) 事前予約申込件数 9,207件(電話 5,358件、インターネット 3,849件)

【粗大ごみ直接持込件数】

粗大ごみの直接持込件数は次のとおりとなった。

前年度の件数と比較して、全体で 22.99% の減、家庭系は 23.08% の減、事業系は 76.92% の減となった。

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
家庭系	12,016件	15,622件	▲23.08%
事業系	3件	13件	▲76.92%
ボランティア・不法投棄	35件	34件	2.94%
その他	20件	9件	122.22%
合計	12,074件	15,678件	▲22.99%

2 最終処分(埋立)したごみ量

可燃ごみ焼却処理後の灰(焼却主灰・焼却飛灰)および、不燃物(陶器・ガラス類)ごみについては、大阪湾広域臨海環境整備センターが管理する、大阪湾神戸沖処分場に運搬し適正に埋立処分した。

前年度と比較して埋立量は、全体で5.43%(221t)の減となった。

尚、主灰および飛灰の含有化学物質等(鉛、ヒ素その他)については、受入先処分場の基準を満たしており問題なかった。※別添分析結果のとおり

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
焼却主灰	2,506t	2,650t	▲5.43%
焼却飛灰	1,055t	1,080t	▲2.31%
不燃物	285t	337t	▲15.43%
合計	3,846t	4,067t	▲5.43%

※焼却主灰・・・可燃ごみを焼却処理した際に残った燃え殻

※焼却飛灰・・・焼却時に発生する排ガス中に含まれる灰(ばいじん)

その他、石綿が混入していると思われる処理困難物であるスレート、珪藻土マットについては、他市の廃棄物処理施設へ運搬し、適正に埋立処分した。

令和4年度	令和3年度
0.67t	0.57t

○クリーンセンターへのごみの直接持込に係る、事前申請制度開始前と事前申請制度開始後のごみ量等の変化について。

令和3年10月からごみの直接搬入について事前申請制度を導入した。持込に一定の制限を設けたことで、持込まれた全てのごみ種において、令和2年度(事前申請無し)と令和4年度(事前申請有り)の1年間で比較すると、件数で50.64%(18,048件)の減、重量で31.24%(641.66t)の減となった。また、年々搬入量が増加し続けていた粗大・破砕ごみ類はそれぞれ大幅な減となり、ごみ搬入量の抑制効果が得られた。

・ごみ搬入件数および重量比較

【全ごみ種】

(直接持込件数)

	令和4年度	令和2年度	対年度比
家庭系	15,720件	33,352件	▲52.87%
事業系	1,875件	2,291件	▲18.16%
合計	17,595件	35,643件	▲50.64%

(直接持込重量)

	令和4年度	令和2年度	対年度比
家庭系	818.31t	1,458.24t	▲43.88%
事業系	593.94t	595.67t	▲0.29%
合計	1,412.25t	2,053.91t	▲31.24%

【粗大ごみ】

(直接持込件数)

	令和4年度	令和2年度	対年度比
家庭系	12,016件	20,407件	▲41.12%
事業系	3件	62件	▲95.16%
合計	12,019件	20,469件	▲41.28%

(直接持込重量)

	令和4年度	令和2年度	対年度比
家庭系	644.92t	978.17t	▲34.07%
事業系	0.07t	7.68t	▲99.09%
合計	677.99t	986.15t	▲31.25%

【破碎ごみ類】

(直接持込件数)

	令和4年度	令和2年度	対年度比
家庭系	641件	3,503件	▲81.70%

(直接持込重量)

	令和4年度	令和2年度	対年度比
家庭系	21.56t	116.63t	▲81.51%

※直接持ち込まれたごみについて、ボランティア、不法投棄等で持ち込まれたものは含んでいない。

3 ごみの資源化

令和4年度にクリーンセンター施設内で資源化したごみの量は3,946.39tであった。

【クリーンセンターでのごみの資源化量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
資源化量	3,946.39t	4,129.32t	▲4.43%

注) 町内会等が実施している資源回収分は含まず。

【町内会等各種団体が実施している資源回収量】

令和4年度に、資源として集団回収した古紙・古布等は2,137.52tであった。

町内会、各種団体等の資源回収量は前年度と比較して13.33%(328.73t)の減となり、平成25年度(4,551t)をピークに年々回収量が大きく減となっている状況である。その背景として、インターネットやスマホ等の電子情報の拡大により、情報を紙媒体(新聞・情報誌等)で収集することが少なくなっているのが要因であると考えられる。

古布については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で業者回収が一時停止するなど、回収量が82.87tと激減していたが、令和3年度に回復傾向にあったものの、令和4年度は前年度の10.79%減となった。

【古紙類・古布集団回収量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
段ボール	585.76t	694.95t	▲15.71%
新聞	893.02t	1,026.11t	▲12.97%
雑誌	541.33t	613.58t	▲11.78%
繊維類(古布)	117.41t	131.61t	▲10.79%
合計	2,137.52t	2,466.25t	▲13.33%

【市外搬出ごみ量、および資源化量（市町村協議したもの）】

市内の各事業所から発生した、刈草・剪定枝・木屑、食品廃棄物等について、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条第3項」に基づき市町村協議し、市外へ搬出し処理したごみ量は、1,046.63tで、その内、堆肥や飼料として資源化した量は、1,041.36tであった。

また、市外に搬出したごみのうち資源化されなかった5.27tについて、不燃物(スレート・珪藻土マット)0.67tは埋立処分、および動物の死骸等4.60tは動物霊園等で焼却処分するなど、いずれも適正に処分を行った。

【市外処理実績】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
市外搬出量	1,046.63t	1,055.11t	▲0.80%
市外資源化量	1,041.36t	1,049.15t	▲0.74%

【総ごみ量と総資源化量】

市内で発生した総ごみ量は、41,397.57tで前年度と比較すると、1.93%(813.79t)の減、総資源化量は、7,156.80tで、7.23%(557.92t)の減となった。

【総ごみ量・資源化量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
総ごみ量	41,397.77t	42,211.36t	▲1.93%
総資源化量	7,157.00t	7,714.72t	▲7.23%

$$\begin{aligned} \text{※総ごみ量} &= \text{クリーンセンター搬入ごみ量} + \text{資源回収量(町内会等)} \\ &\quad + \text{市外ごみ搬出量} + \text{市内刈草(堆肥)発生量} \\ &= 38,182.42\text{t} + 2,137.52\text{t} + 1,046.63\text{t} + 31.20\text{t} = 41,397.77\text{t} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{※総資源化量} &= \text{クリーンセンターで資源化した量} + \text{資源回収量(町内会等)} \\ &\quad + \text{市外搬出ごみの内資源化した量} + \text{市内で刈草を堆肥化した量} \\ &\quad + \text{粗大ごみ(家具類)をリサイクルした量} \\ &= 3,946.39\text{t} + 2,137.52\text{t} + 1,041.36\text{t} + 31.20\text{t} + 0.53\text{t} = 7,157.00\text{t} \end{aligned}$$

【ごみ資源化率】

	令和4年度	令和3年度
資源化率	17.3%	18.3%

$$\begin{aligned} \text{資源化率} &= \text{総資源化量} / \text{総ごみ量} \times 100 \quad (\%) \\ &= 7,157.00\text{t} / 41,397.77\text{t} \times 100 = 17.3\% \end{aligned}$$

3-1 金属類 資源化量

破碎ごみ類、粗大ごみや空き缶類から出た金属類の資源化量は次のとおりであった。

【資源化量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
スチール(破碎)	45.33t	67.54t	▲32.88%
アルミ(破碎)	5.35t	7.08t	▲24.44%
屑鉄	295.00t	369.64t	▲20.19%
電線	1.16t	3.80t	▲69.47%
空き缶	250.36t	252.85t	▲0.98%
合計	597.20t	700.91t	▲14.80%

※金属類の買受業者に売却し、資源化。

3-2 びん類 資源化量

飲・食料用びん類の資源化量は、次のとおりであった。

【資源化量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
無色	314.38t	335.34t	▲6.25%
茶色	193.13t	191.56t	0.82%
その他	157.04t	179.21t	▲12.37%
合計	664.55t	706.11t	▲5.89%

※無色および茶色びんは、リサイクル(カレット)工場に売却し資源化。

※その他の色のびんは、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じて資源化。

3-3 プラスチック製容器包装類、ペットボトル類 資源化量

プラスチック製容器包装類、ペットボトル類の資源化量は次のとおりであった。

【資源化量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
容器包装プラスチック	969.18t	1,000.87t	▲3.17%
ペットボトル	322.39t	302.96t	6.41%

※容器包装プラスチックとペットボトルは、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じて資源化。

3-4 乾電池・蛍光管 資源化量

乾電池、蛍光管の資源化量は、次のとおりであった。

【資源化量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
乾電池	27.71t	27.66t	0.18%
蛍光管	9.52t	6.64t	43.37%

※乾電池・蛍光管の処理業者に委託し、資源化。

3-5 古紙類 資源化量

古紙類(新聞・広告、雑誌・雑紙、段ボール)の資源化量は、次のとおりであった。

【資源化量】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
新聞・広告	338.90t	356.00t	▲4.80%
雑誌・雑紙	380.70t	385.47t	▲1.24%
段ボール	513.62t	511.25t	0.46%
合計	1,233.22t	1,252.72t	▲1.56%

※古紙の買受業者に売却し、資源化。

注) 町内会等が実施している資源回収分は、クリーンセンターに搬入されないことから、上記の量には含んでいない。

3-6 小型家電・資源化量

小型家電の資源化量は、次のとおりであった。

「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」に基づく資源化。

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
制度対象品目+特定対象品目	121.33t	129.96t	▲6.64%

※小型家電の資源化は、平成30年度から実施。

※制度対象品目：通常家庭で使用する電気機械器具。（電子レンジ、掃除機等）

※特定対象品目：電気機械器具の内、資源性と分別のしやすさから特にリサイクルすべき品目として国がガイドラインで指定するもの。

（携帯電話、ラジオ、デジタルカメラ、ゲーム機等）

※フロン入り小型家電(1.62t)は制度対象品目に含む。

※ガイドライン：「使用済み小型電子機器等の回収に係るガイドライン」

3-7 特定家電 資源化量

家電4品目(テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン等)については、家電リサイクル法に基づき資源化。

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
家電4品目	0.89t	0.92t	▲3.26%

3-8 処理困難物 資源化量

廃タイヤ・小型二次電池・消火器等の資源化。

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
処理困難物	0.40t	0.57t	▲29.82%

3-9 刈草の堆肥化

市内で刈り取った草類を堆肥化し資源化

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
刈草堆肥	31.20t	70.00t	▲55.43%

3-10 粗大ごみの資源化

粗大ごみから選別した家具類の資源化

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
粗大ごみ	0.53t	0.35t	51.43%

4 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の目標値

草津市第3次一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（令和4年3月）の減量目標に掲げる数値は次のとおりである。

（1）家庭系ごみ（集団回収を含む）の減量目標

令和元年度比で市民1人1日当たり 44.2g(8.0%)の減量

令和元年度実績:553.2g ⇒ 令和14年度:509.0g

【1人1日当たりの家庭系ごみ排出量】

令和4年度実績	令和4年度目標値
515.4g/人・日	546.2g/人・日

(家庭系ごみ搬入量+集団回収ごみ量)/365日/人口(国勢調査人口に基づき、県が公表する推計人口)×1,000×1,000=(25,373.05t+2,137.52t)/365日/146,227人×1,000×1,000=515.4g/人・日(令和4年度実績値)

令和4年度の目標値(546.2g/人・日)を下回り達成。

（2）事業系ごみの減量目標

令和元年度比で市民1人1日当たり 15.9g(6.1%)の減量

令和元年度実績:260.2g ⇒ 令和14年度:244.3g

【1人1日当たりに換算した事業系ごみ排出量】

令和4年度実績	令和4年度目標値
240.0g/人・日	258.7g/人・日

(事業系ごみ搬入量)/365日/人口(国勢調査人口に基づき、県が公表する推計人口)×1,000×1,000=12,809.37t/365日/146,227人×1,000×1,000=240.0g/人・日(令和4年度実績値)

令和4年度の目標値(258.7g/人・日)を下回り達成。

(3) 参考指標 (ベンチマーク)

【リサイクル率】

参考指標として、令和元年度の 19.1%以上となるよう設定。

令和4年度実績
17.3%

令和4年度は、指標値(19.1%以上)を下回り未達成。

【ごみ埋立(最終)処分量】

参考指標として、令和元年度の 4,568t 以下となるよう設定。

令和4年度実績
3,846t

令和4年度は、指標値(4,568t)以下となり達成。

5 発電実績

令和4年度 焼却炉その他の各種発電実績および売電料金等は次のとおりである。

○ごみ焼却炉による発電量等

発電量 (焼却炉) kWh	売電量 (関西電力) kWh	買電量 (関西電力) kWh	クリーンセンタ ー消費電力量 kWh	ごみ焼却量 t	売電料金 (関西電力) 円
19,769,900	13,878,199	111,829	6,017,820	33,376.47	168,567,602

※ごみ焼却量 1 トン当たりの発電量(592kWh/t)、売電料金(5,050 円/t)

○その他の発電量(売電対象外)

太陽光発電量 kWh	ガスエンジン発電量 kWh
12,140	2,150

6 見学者

令和4年度のクリーンセンター見学者は、市内の小学4年生や市内外の個人・企業など70団体、延べ2,598人であった。

【クリーンセンター見学者数】

	令和4年度	令和3年度	対前年度比
団体数	70団体	70団体	0.00%
人数	2,598人	2,362人	9.99%

※新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや消毒等の予防措置の徹底により、見学者数は、前年度より増加したと考えられる。

7 環境管理

令和4年度における排ガス中のばいじん・硫黄酸化物・窒素酸化物・塩化水素、排ガス・焼却灰中のダイオキシン類の測定結果は、いずれも法で定める基準値以下であった。

7-1 排ガスの測定結果

【排ガス測定結果（年平均）】

	単位	基準値 (法)	自主 基準値	令和4年度	令和3年度
ばいじん	g / N m ³	0.08 以下	0.02 以下	0.003	0.002
硫黄酸化物	(SO _x) K 値	8.76 以下	0.2 以下	0.011	0.012
窒素酸化物	(NO _x) ppm	250 以下	80 以下	42	43
塩化水素	(HCL) mg / N m ³	700 以下	130 以下	8.5	4.3
水銀	μ g / N m ³	50 以下	50 以下	0.3 未満	0.30

7-2 ごみ質（焼却ごみ）の調査結果

【ごみ質（年平均）】（ごみの3成分）

	令和4年度	令和3年度
可燃分	47.98%	51.55%
水分	45.59%	42.31%
灰分	6.43%	6.14%

【ごみ質（年平均）】（ごみの種類別組成）

	令和4年度	令和3年度
厨芥類	6.46%	5.81%
紙・布	50.24%	58.15%
木・竹・わら類	11.46%	6.36%
プラスチック類	29.16%	27.30%
不燃物類	0.96%	1.01%
その他	1.72	1.38%

7-3 ダイオキシン類の分析結果

【排ガス中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値 (法)	自主 基準値	1号炉	2号炉
令和4年度	ng-TEQ/N m ³	1	0.1	0.000051※ 0.00013	0.000017
令和3年度				0.00010 0.00049※	0.000021

※滋賀県南部環境事務所 立入検査結果

【焼却灰中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値 (法)	1号炉	2号炉
令和4年度	ng-TEQ/g	3	0.0026	0.000070
令和3年度			0	0.0010

【飛灰中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値(法)	飛灰
令和4年度	ng-TEQ/g	3	0.19
			0.24
			0.12 ※
			0.11
			0.18
令和3年度			0.21
			0.21
			0.17
			1.0 ※
			0.39

※滋賀県南部環境事務所 立入検査結果

令和4年度年間報告

◆ごみ搬入量 (単位:t)

クリーンセンターへ搬入された総ごみ量

38,182.42

【内訳】

1 家庭系ごみ

ごみ種	処理方式	委託搬入	持込搬入	合計	搬入日数	日平均搬入量	ごみ量割合
焼却ごみ類	焼却	19,841.41	177.85	20,019.26	321	62.37	78.90%
プラスチック製容器類	資源化	1,015.20	0.02	1,015.22	257	3.95	4.00%
ペットボトル類	資源化	338.78	0.16	338.94	237	1.43	1.34%
空き缶類	資源化	237.87	0.62	238.49	208	1.15	0.94%
飲・食料用ガラスびん類	資源化	693.11	0.64	693.75	233	2.98	2.73%
破碎ごみ類	破碎	573.37	23.71	597.08	302	1.98	2.35%
陶器・ガラス類	埋立	253.27	11.70	264.97	175	1.51	1.04%
新聞・広告	資源化	338.86	0.04	338.90	123	2.76	1.34%
雑誌・雑紙	資源化	378.71	1.99	380.70	165	2.31	1.50%
段ボール	資源化	511.77	1.85	513.62	206	2.49	2.02%
乾電池	資源化	25.21	0.06	25.27	53	0.48	0.10%
蛍光管	資源化	8.28	0.00	8.28	103	0.08	0.03%
粗大ごみ	破碎	284.40	654.17	938.57	311	3.02	3.70%
家庭系 合計	—	24,500.24	872.81	25,373.05	—	86.51	100%

2 事業系ごみ

ごみ種	処理方式	許可業者搬入	持込搬入	合計	搬入日数	日平均搬入量
焼却ごみ	焼却	12,068.17	741.13	12,809.30	310	41.32
粗大ごみ	破碎	—	0.07	0.07	3	0.02
事業系 総計				12,809.37		

◆焼却処理するごみ量および最終処分量 (単位:t)

1 焼却処理するごみ量

32,828.56

2 最終処分量 (フェニックス、他 埋立量) (単位:t)

	種類	重量	種類	重量	種類	重量	減量率%
フェニックス	灰(焼却灰)	2,506	灰(飛灰)	1,055	燃物(混ガラ)	285	1-埋立量/ごみ量
その他	処理困難物・他	0.67					89.93
最終処分量合計		3,846.67					

◆資源化量 (単位:t)

種類	内 訳					合計
	スチール	アルミ	くず鉄	電線	空き缶	
金 属	45.33	5.35	295.00	1.16	250.36	597.20
	透明	茶 色	その他(青・黒)			664.55
び ん 類	314.38	193.13	157.04			
	容リプラスチック、 ペットボトル、 乾電池、蛍光管	容リプラスチック	ペットボトル	乾電池	蛍光管	1,328.80
古紙	969.18	322.39	27.71	9.52		
	新聞・広告	雑誌・雑紙	段ボール		センターからの搬出分含む	1,233.22
小型家電・ 特定家電	338.90	380.70	513.62			
	小型家電 (制度対象品目)	小型家電 (制度対象品目、フロン入り)		特定家電 (家電4品目)		122.22
処理困難物	119.71	1.62		0.89		
	再資源					0.40
	0.40					
	資源化量合計	3,946.39	再資源化率% (再資源化量/ごみ量)			10.34%